



兵庫労働局発表
令和元年5月30日

報道関係者 各位



[照会先]
兵庫労働局労働基準部
安全課
課長 妹尾 裕治
安全専門官 濱田 一郎
TEL . 078-367-9152
FAX . 078-367-9166

平成30年の労働災害発生状況を公表

～死亡者数は増加に転じ、休業4日以上の死傷者数は2年連続で増加～

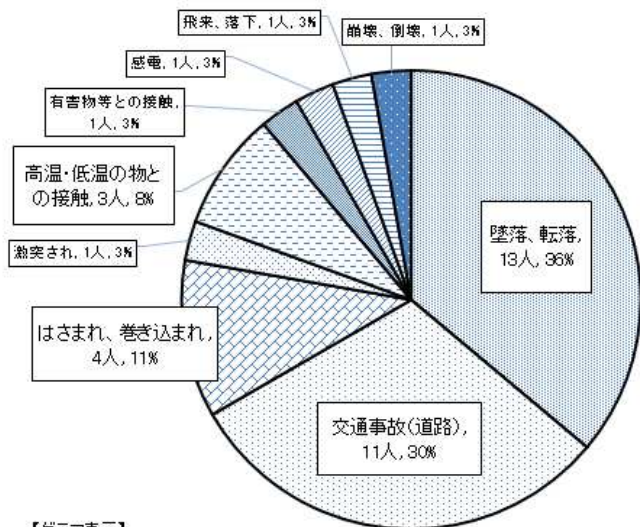
兵庫労働局（局長 畑中 啓良）では、このたび、兵庫県内における平成30年の労働災害発生状況を取りまとめましたので公表します。

平成30年の労働災害による死亡者数は36人、平成29年比6人増（20.0%増）。事故の型別の死亡者数は、「墜落・転落」13人、「交通事故」11人、「はさまれ巻き込まれ」4人、「高温低温の物との接触（熱中症）」3人、その他「飛来落下」、「崩壊倒壊」、「激突され」、「有害物との接触」、「感電」でそれぞれ1人発生しています。

休業4日以上の死傷者数（以下「死傷者数」という。）は5,042人で、前年の4,794人から248人増（対前年比5.2%増）となり、2年連続の増加となりました。

死亡災害

36人、前年同期比+20.0%



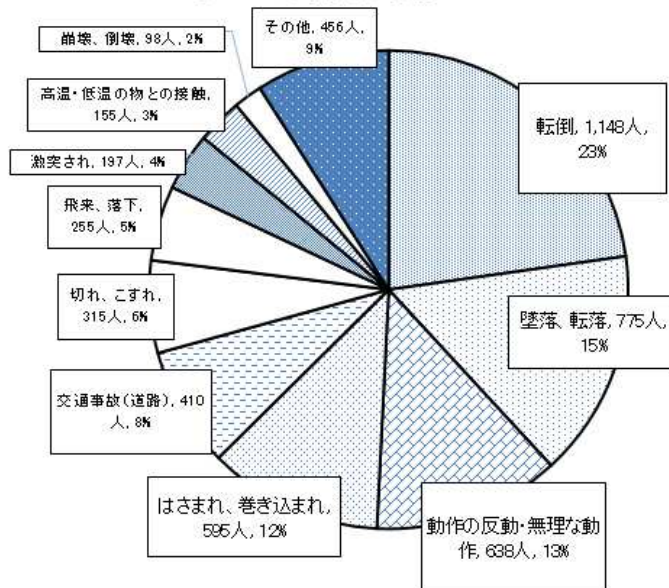
【グラフ表示】

事故の型,被災者数,構成比%

出典:死亡災害速報

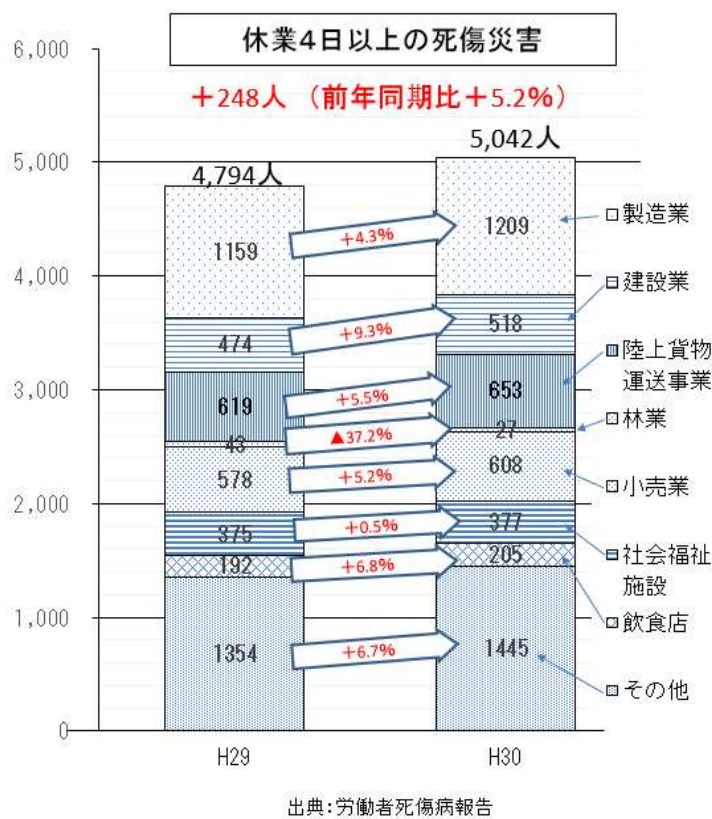
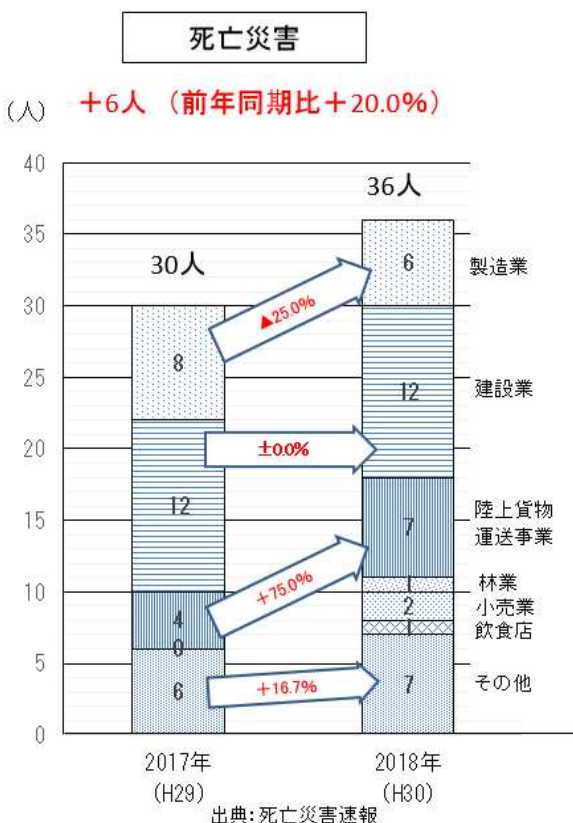
休業4日以上の死傷災害

5,042人、前年同期比+5.2%



出典:労働者死傷病報告

労働災害発生状況の概要は、次のとおりです。



製造業の死亡者数は6人で、前年の8人から2人減(25.0%減)、2年連続の減少となりましたが、「はさまれ・巻き込まれ」で2人、「墜落・転落」で2人発生するなど、在来型災害が多発しています。

死傷者数は1,209人で、前年より50人増(4.3%増)となりました。なかでも「はさまれ・巻き込まれ」333人(27.5%)、「転倒」206人(17.0%)、「墜落・転落」118人(9.8%)の順で多く発生しています。

建設業では、死亡者数が12人となり、前年と同じとなりました。死亡災害のうち、「墜落・転落」が6人で、高所から墜落する災害が依然として多く、「転倒」や「感電」などは減少しましたが、「高温・低温の物との接触(熱中症)」で2人、「交通事故(道路)」で2人発生しています。

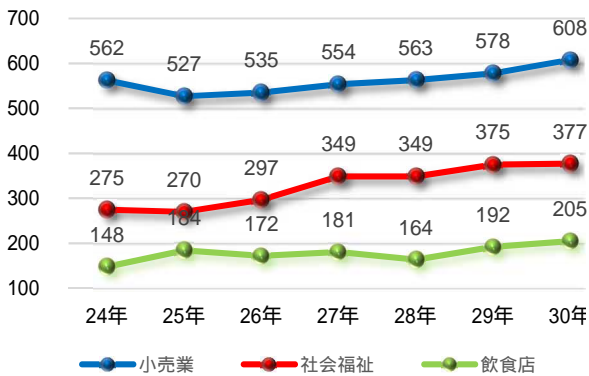
死傷者数は、518人で、前年より44人増(9.3%増)となりました。「墜落・転落」は201人(対前年比38人増(7.9%増))で、建設業の死傷者数の約4割(38.8%)を占めました。次いで「転倒」53人、「はさまれ・巻き込まれ」51人、「切れ・こすれ」46人の順で多く発生しています。

林業では、過去3年間死亡災害の発生はありませんでしたが、「墜落・転落」による死亡者が1人発生しました。死傷者数は、前年より16人減少し、27人となりました。

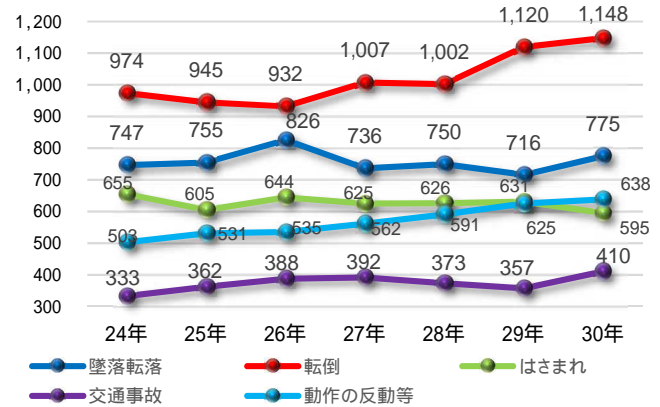
陸上貨物運送事業では、「交通事故(道路)」による死亡者数が5人発生したこともあり、前年を3人上回る7人となりました。死傷災害のうち、従来から多発していた「墜落・転落」、「転倒」、「動作の反動・無理な動作」によるものが増加するなどして、死傷者数が前年を上回りました。

第三次産業では、死傷災害については「転倒」と腰痛などの「動作の反動・無理な動作」が引き続き増加傾向にあり、死傷者数が前年を上回りました。特に死傷災害が多い小売業、社会福祉施設、飲食店については、死傷者数が前年を上回りました。

第三次産業 死傷者数の推移



事故の型別 死傷者数の推移



事故の型別の死傷者数のうち「転倒」は、業種を問わず増加傾向にあり、死傷災害の23%程度を占めています。特に高齢の女性での被災が多く、女性の被災者のうち約34%が60歳以上でした。

労働災害を減少させるために、国や事業者、労働者等が重点的に取り組む事項を定めた中期計画である「兵庫第13次労働災害防止推進5か年計画」(2018~2022年度)では、労働災害による死亡者数を15%以上、休業4日以上の死傷者数を5%以上減少させることを目標としております。

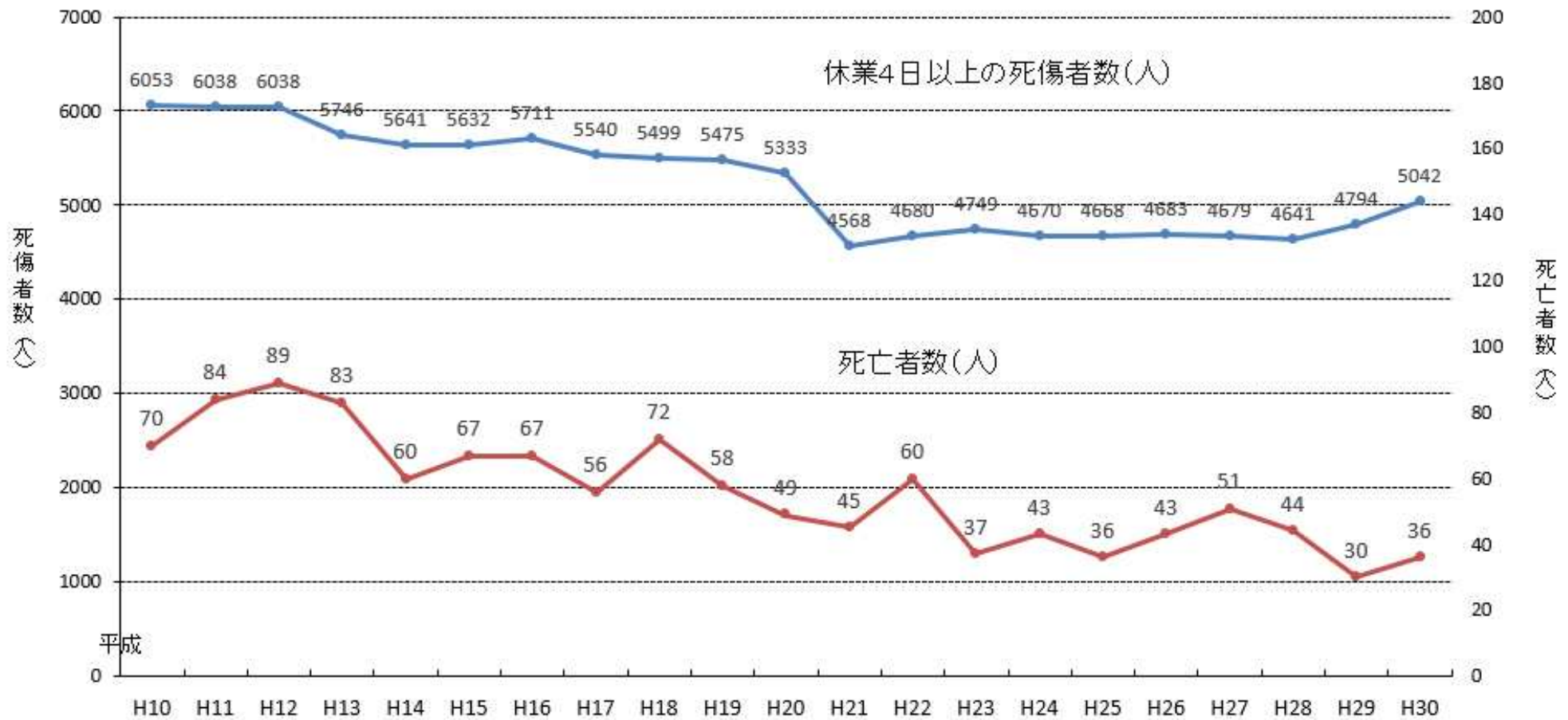
計画の2年目となる今年度は、目標の達成に向け、直近の災害動向を踏まえ、建設業における墜落・転落防止対策の充実強化などの死亡災害の撲滅を目指した対策の推進や、労働力の高齢化や就業構造の変化等に対応した対策などに引き続き取り組むとともに、転倒災害対策のための視聴覚教材の普及、リスクアセスメントの取組など、さまざまな対策に取り組んでいきます。

また、全国安全週間(7月1日~7日)とその準備期間(6月1日~30日)では、兵庫労働局、県下11の労働基準監督署から事業場、関係業界団体等に対して、積極的な労働災害防止活動の実施を働きかけます。

(添付資料) 平成30年の労働災害発生状況(兵庫県内)

労働災害発生状況の推移

- ・死亡者数は、長期的には減少しておりますが、墜落・転落災害、交通事故(道路)が多発するなどして、増加に転じました。
- ・休業4日以上の死傷者数は、転倒災害、交通事故(道路)、高温・低温物との接触(熱中症)が増加するなどして、2年連続の増加となりました。

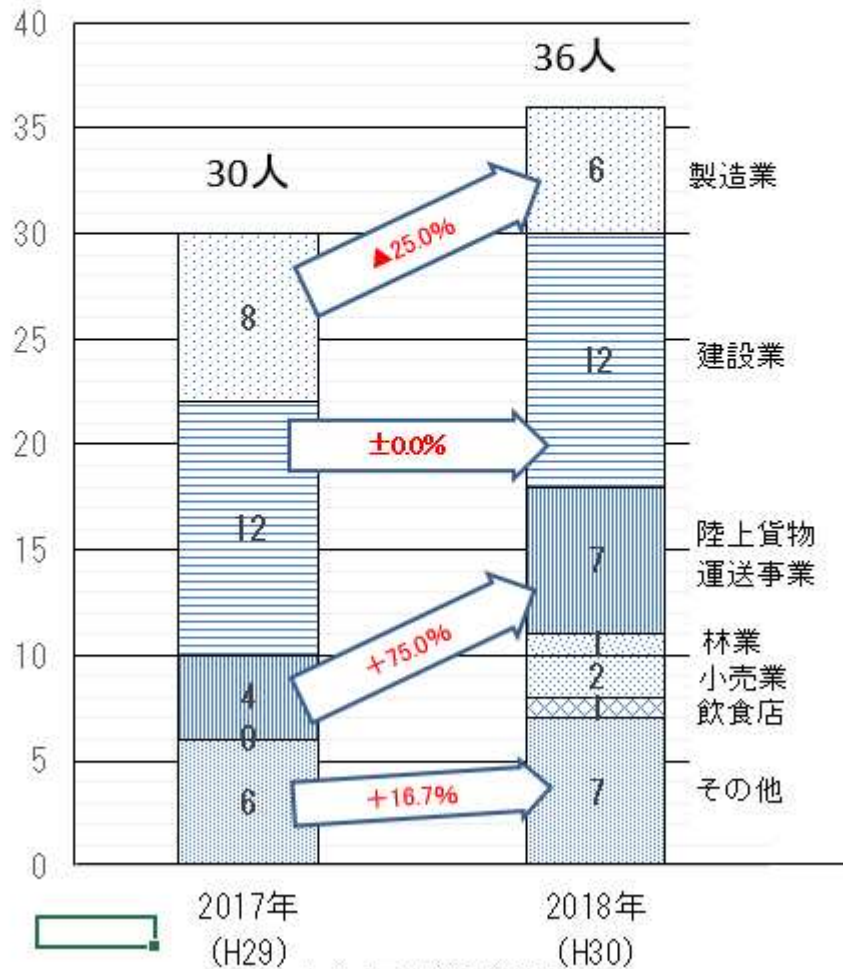


出典 労働者死傷病報告、死亡災害速報により作成

平成30年 業種別 労働災害発生状況(確定値)

死亡災害

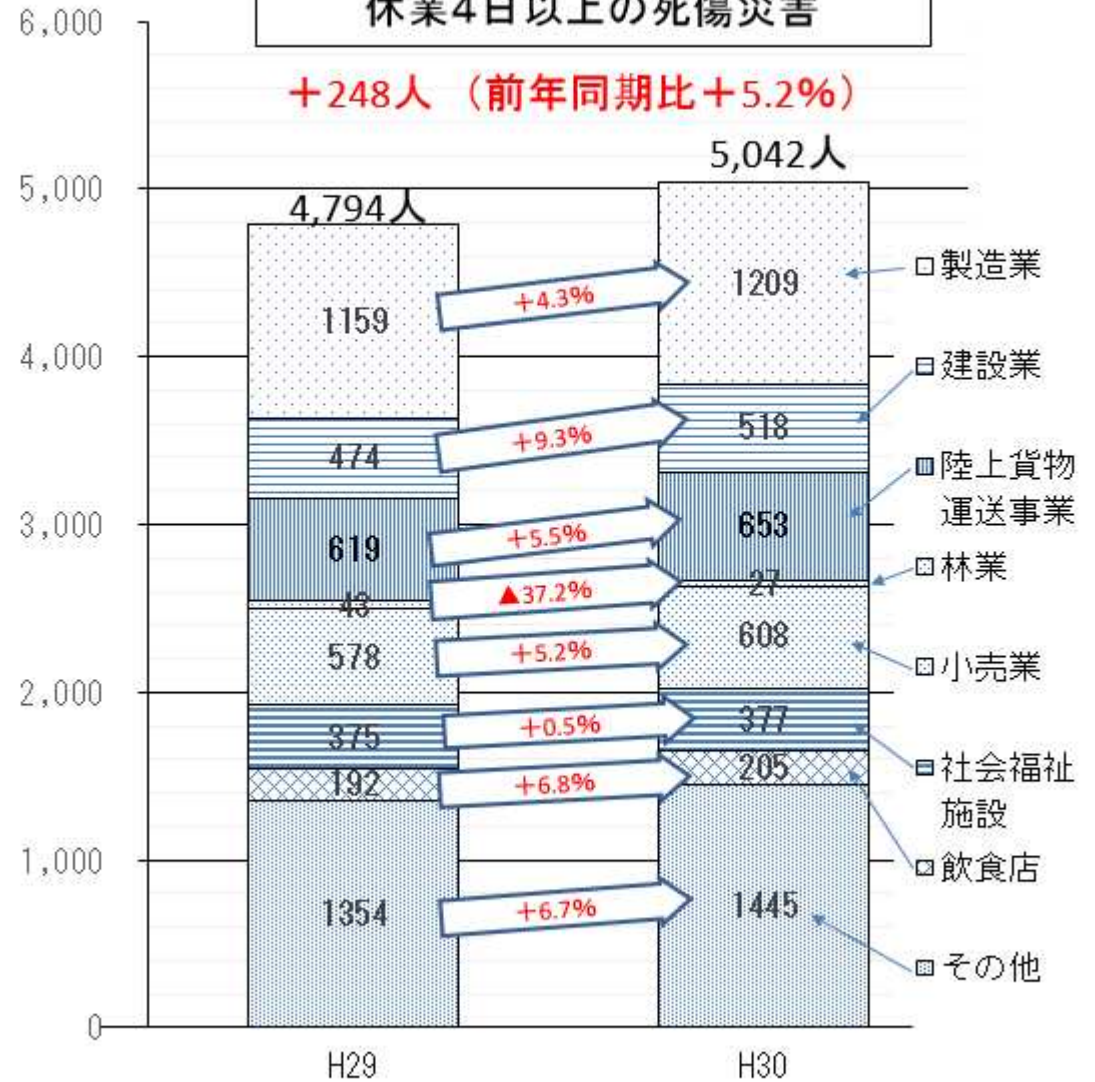
(人) **+6人 (前年同期比+20.0%)**



出典: 死亡災害速報

休業4日以上の死傷災害

+248人 (前年同期比+5.2%)

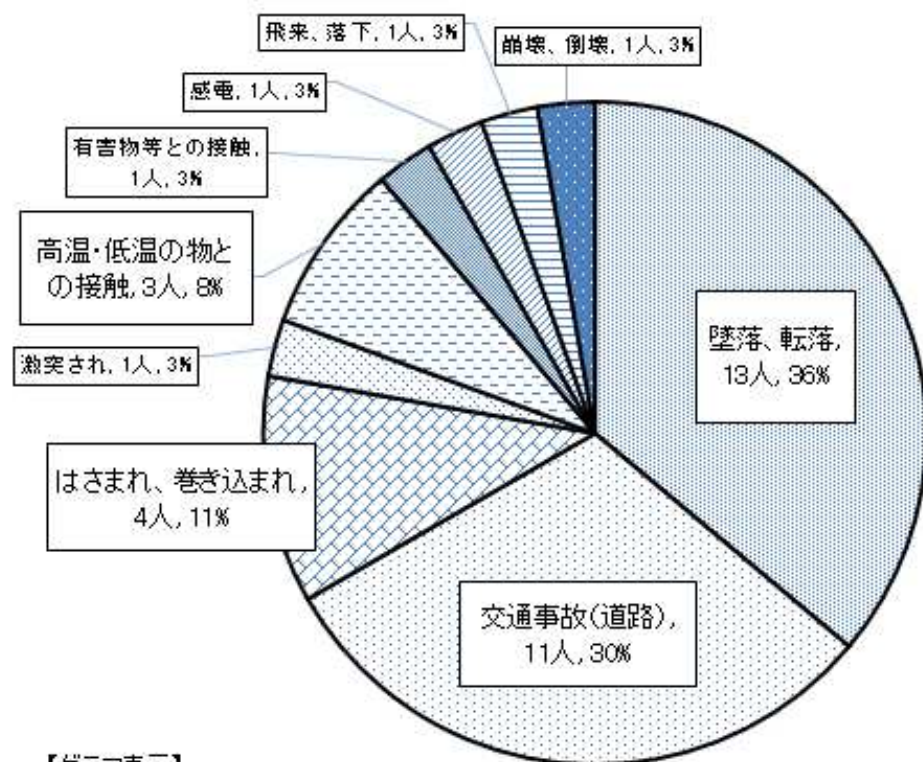


出典: 労働者死傷病報告

平成30年 事故の型別労働災害発生状況(確定値)

死亡災害

36人、前年同期比+20.0%



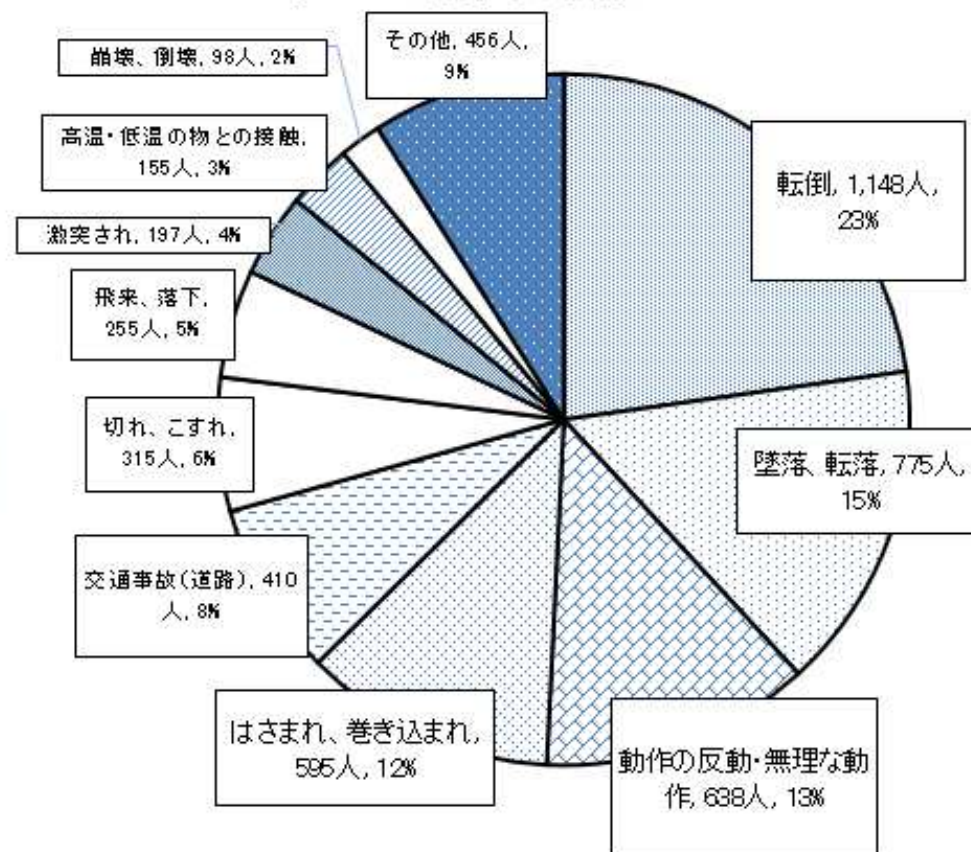
【グラフ表示】

事故の型, 被災者数, 構成比%

出典: 死亡災害速報

休業4日以上之死傷災害

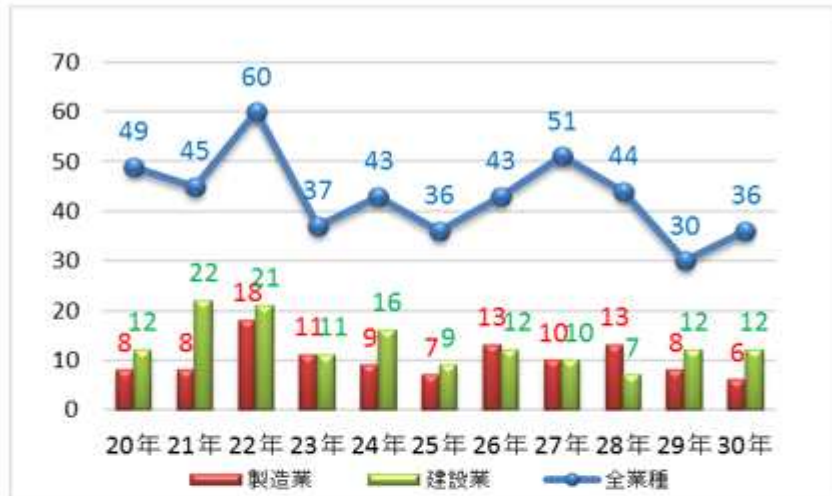
5,042人、前年同期比+5.2%



出典: 労働者死傷病報告

平成30年 業種別 労働災害発生状況(確定値)

【業種別－死亡者数の推移】



【業種別－死傷者数の推移】



【第三次産業－死傷者数の推移】



【事故の型別－死傷者数の推移】



(出典) 「労働者死傷病報告」

死亡災害発生状況(兵庫県内確定値)

	平成30年		平成29年		前年比較	
	死亡者数	構成率	死亡者数	構成率	増減数	増減率
全業種	36	100.0%	30	100.0%	6	20.0%
製造業	6	16.7%	8	26.7%	-2	-25.0%
鉱業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
建設業	12	33.3%	12	40.0%	0	0.0%
運輸交通業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
陸上貨物運送事業	7	19.4%	4	13.3%	3	75.0%
港湾荷役業	0	0.0%	1	3.3%	-1	-100.0%
林業	1	2.8%	0	0.0%	1	100.0%
その他の事業	10	27.8%	5	16.7%	5	100.0%

※ 集計表の合計値は四捨五入の計につき、必ずしも100.0%となるとは限りません。

平成30年 業種別-事故の型別 死亡災害発生状況

業種	事故の型													合計	
	墜落転落	転倒	激突	飛来落下	崩壊倒壊	激突され	はさまれ巻き込まれ	踏み抜き	おぼれ	高温・低温の物との接触	有害物との接触	感電	交通事故		その他
製造業(1)	2				1		2						1		6
鉱業(2)															0
建設業(3)	6			1			1			2			2		12
運輸交通業(4.1,4.2,4.4)															0
陸上貨物運送事業(4.3,5.1)	1						1						5		7
港湾荷役業(5.2.2)															0
林業(6.2)	1														1
その他	3					1				1	1	1	3		10
合計	13	0	0	1	1	1	4	0	0	3	1	1	11	0	36

(参考)平成29年 業種別-事故の型別 死亡災害発生状況

業種	事故の型													合計	
	墜落転落	転倒	激突	飛来落下	崩壊倒壊	激突され	はさまれ巻き込まれ	踏み抜き	おぼれ	高温・低温の物との接触	有害物との接触	感電	交通事故		その他
製造業(1)	2					2	2				1	1			8
鉱業(2)															0
建設業(3)	6	2							1		1	2			12
運輸交通業(4.1,4.2,4.4)															0
陸上貨物運送事業(4.3,5.1)	1						1						2		4
港湾荷役業(5.2.2)									1						1
林業(6.2)															0
その他						1	1			1				2	5
合計	9	2	0	0	0	3	4	0	2	1	1	1	5	2	30